

線状降水帯の予測を6月1日から開始

甚大な災害を引き起こす可能性のある線状降水帯の発生を予測することは技術的な課題が多くあります。気象庁では、早めの避難につなげるため、技術開発を進めて、現状の技術で可能な予測の第一歩として、以下のような情報発表を6月1日から開始しました。

➤ 令和4年6月1日から、線状降水帯による大雨の可能性が高い場合に、**「気象情報」**において、**半日程度前から地方予報区単位等**でお知らせし、**警戒を呼びかけます。**



気象情報でお伝えする予測の内容

大雨に関する〇〇地方気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇時〇分 〇〇气象台発表

<見出し>

〇〇地方では、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

… (中略) …

[量的予想]

<雨の予想>

〇日〇時から〇日〇時までには予想される24時間降雨量は、いずれも多い所で、

〇〇県 〇ミリ

〇〇県 〇ミリ

〇〇県 〇ミリ

の見込みです。

線状降水帯が発生した場合は、局地的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

… (中略) …

[補足事項]

今後発表する防災気象情報に留意してください。

次の「大雨に関する〇〇地方気象情報」は、〇日〇時頃に発表する予定です。

大雨が予想される際に発表される気象情報に、線状降水帯発生の可能性に言及するフレーズを挿入

予想雨量と併せて、線状降水帯が発生した場合にはさらに状況が悪くなる可能性があることを伝える

この気象情報により、テレビやインターネットなどでも「線状降水帯」というキーワードで注意喚起されます。

「線状降水帯」という言葉を見聞きしたら、気象庁HPで「気象情報」を確認してください。

